

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 12020100

政策目標	3	のひやか・雄武～教育・文化の振興～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	13	生涯学習・生涯スポーツの推進	事業優先度	B		
単位施策	3	青少年教育の推進	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)		
事業名	武雄市児童交流事業		見直し年度			
事業期間	平成25年度～平成29年度		担当課	12 教育委員会教育振興課		
事業主体	雄武町		関係課	#N/A		
事業指標	武雄市への児童派遣及び受け入れ		関係例規・法令名	#N/A		
事業目標	派遣児童16名、引率者4名及び受け入れ児童16名		ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業		
住民参加	無		関係例規・法令名	無		
住民協働	無		関係個別計画名	無		

全体計画		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	
事業内容		事業内容		事業内容		事業内容	
計 画 内 容	武雄市への児童派遣及び受け入れ	派遣 経費 旅費 900千円 需用費 40千円 食糧費 30千円 消耗品 10千円 役務費 30千円 負担金 1,700千円 受入 経費 報償費 40千円 旅費 3千円 需用費 200千円 使用料 27千円	派遣 経費 旅費 900千円 需用費 40千円 食糧費 30千円 消耗品 10千円 役務費 30千円 負担金 1,700千円 受入 経費 報償費 40千円 旅費 3千円 需用費 200千円 使用料 27千円	派遣 経費 旅費 900千円 需用費 40千円 食糧費 30千円 消耗品 10千円 役務費 30千円 負担金 1,700千円 受入 経費 報償費 40千円 旅費 3千円 需用費 200千円 使用料 27千円	派遣 経費 旅費 900千円 需用費 40千円 食糧費 30千円 消耗品 10千円 役務費 30千円 負担金 1,700千円 受入 経費 報償費 40千円 旅費 3千円 需用費 200千円 使用料 27千円	派遣 経費 旅費 900千円 需用費 40千円 食糧費 30千円 消耗品 10千円 役務費 30千円 負担金 1,700千円 受入 経費 報償費 40千円 旅費 3千円 需用費 200千円 使用料 27千円	
	事業費(千円)	14,900	2,980	2,980	2,980	2,980	2,980
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	2,400	480	480	480	480	
一般財源	12,500	2,500	2,500	2,500	2,500		
実 績 事 業 費	事業費(千円)	4,808	2,155	2,653	0	0	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
その他	780	300	480				
一般財源	4,028	1,855	2,173				
関 連 事 項	特定財源の名称						
	武雄市児童交流事業参加者負担金	【評価・実績】	(実施内容等) 武雄市への児童派遣 引率者4名、児童10名 ・学校交流、ホームステイ等 武雄市児童受入 引率者4名、児童16名 ・学校交流、ホームステイ等 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 武雄市への児童派遣 引率者4名、児童16名 ・学校交流、ホームステイ等 武雄市児童受入 引率者4名、児童16名 ・学校交流、ホームステイ等 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) ※事務事業評価結果	(実施内容等) ※事務事業評価結果	
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	派遣員等20名、受け入れ児童16名	派遣員等20名、受け入れ児童16名	派遣員等20名、受け入れ児童16名	派遣員等20名、受け入れ児童16名	派遣員等20名、受け入れ児童16名
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	72%	89%	0%	0%	0%
	第6期計画への継続 (継続有り)	全体達成率	14%	32%	32%	32%	32%
	事業進捗状況	☆☆☆☆	☆☆☆☆				

事業名	武雄市児童交流事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	澤田 朋 朗
		評価者 作成者 職氏名	生涯教育係長	佐藤 公 輔

様式1
平成26年度実施
平成27年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町内小学生(5年生・6年生)	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	派遣児童16名、引率者4名 受入児童16名、引率者4名								
【抱える課題やニーズは】	様々な文化と児童間の交流体験の確保	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	自主的・集団的な人間関係づくりと学ぶ意欲の促進	① 派遣児童及び引率者	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成26年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>20名</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>20名</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0%</td></tr> </table>	目標年度	平成26年度	目標値	20名	実績値	20名	達成度	100.0%
目標年度	平成26年度										
目標値	20名										
実績値	20名										
達成度	100.0%										
【その結果、どのような成果を実現したか】 ※成果=目的	学校及び地域等での自発的役割の発揮とともに助け合う意欲の醸成	② 受入児童及び引率者	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成26年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>20名</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>20名</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0%</td></tr> </table>	目標年度	平成26年度	目標値	20名	実績値	20名	達成度	100.0%
目標年度	平成26年度										
目標値	20名										
実績値	20名										
達成度	100.0%										
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	派遣	町内小学校児童16名、引率者4名を派遣し、学校交流及びホームステイを体験									
	受入	武雄市児童16名、引率者4名を受入れ、学校交流、ホームステイを体験									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	地域文化・教育的な交流は、地域児童の情操教育、郷土意識の向上及び健やかな変容を図るため必要である。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	気候や風土、生活習慣を体験でき、自主的活動意欲が養われた。
有効/概ね有効	<input checked="" type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	交通手段等の工夫を行い経費削減に取り組んでいる。
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	町内小学生5年生以上を対象とし、希望者について等しく参加を認めているとともに、適切な受益者負担を求めており、公平性を確保している。
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
課題あり	<input type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
積極的に交流を行い、本事業の目的に沿う事業展開ができています。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
地域間交流等の体験を通して、次代を担う青少年の育成が図られることから、継続が必要である。		

※展開方向の区分
継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
終了 休止 廃止